

第4期中期目標期間(令和元年度～5年度)業務実績の評価結果

資料 2-2

	中期計画(中期目標)	重要度	難易度	元年度 評価結果 (参考)	2年度 評価結果 (参考)	3年度 評価結果 (参考)	4年度 評価結果 (参考)	5年度 評価結果	見込 評価結果 (参考)	期間 評価結果
総合評定				A	B	A	A	A	A	A
Ⅰ.国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項										
1	健康被害救済業務	高	高	A	B	A	S	A	A	A
2	スモン患者等に対する給付業務			B	B	B	B	B	B	B
3	審査業務	高	高	S	S	S	S	S	S	S
4	安全対策業務	高	高	A	A	S	A	A	A	A
Ⅱ.組織運営の効率化に関する事項										
5	組織ガバナンス関係	高		B	C	B	B	B	B	B
Ⅲ.財務内容の改善に関する事項										
6	経費節減、予算、資金計画等			B	B	B	B	B	B	B

S: 中期計画を大幅に上回っている／A: 中期計画を上回っている／B: 中期計画を概ね達成している
C: 中期計画をやや下回っている／D: 中期計画を下回っており、大幅な改善が必要

第4期中期目標期間(令和元年度～5年度)業務実績の評価 (厚生労働大臣評価)の結果

○ 法人全体に対する評価

＜法人全体の評価＞

全体として中期目標における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。

特に、新医薬品の審査業務について、第3期中期計画の期末年までに順次引き上げてきた総審査期間及び目標達成率の厳しい設定を維持し続けることが求められる中、目標を大きく上回る高い実績を上げている。

さらに、目標策定時点では想定されなかった新型コロナウイルス感染症に対する治療薬・ワクチンの承認審査や、副作用・副反応報告の調査・分析を迅速かつ適切に行ったことは高く評価できる。

また、重大な業務運営上の課題は検出されておらず、全体として順調な組織運営が行われているものと評価する。

＜全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項＞

特に全体の評価に重大な影響を与える事項はなかった。

○ 課題、改善事項など

＜項目別評定で指摘した課題、改善事項＞

特になし

＜その他改善事項＞

特になし

＜主務大臣による改善命令を検討すべき事項＞

特になし

○ その他の事項

特になし

健康被害救済業務：A評価（第4期実績）

＜主務大臣による評価＞

- ・ 請求事案の6ヶ月以内の処理件数を60%以上との定量的指標について、令和元年度～令和5年度の平均は78.6%（達成度120.9%）であり、目標を大幅に上回っていることを高く評価する。
- ・ 令和元年度～令和5年度において、救済制度特設サイトのアクセス数が延べ3,644,986件と、第3期中期計画期間の延べ件数（1,364,256件）を大幅に上回っており、救済制度の認知度向上に資する取組の成果として、高く評価する。

スモン患者等に対する給付業務：B評価（第4期実績）

＜主務大臣による評価＞

- ・ スモン患者及び血液製剤によるHIV感染者等に対する受託支払業務並びに特定フィブリノゲン製剤及び特定血液凝固第IX因子製剤によるC型肝炎感染被害者に対する給付業務等について、個人情報に配慮しつつ、委託業務については契約内容に基づき、適切に実施しており、中期目標における所期の目標を達成していると認められる。

審査業務：S評定（第4期実績）

＜主務大臣による評価＞

- 定量的指標について多くの項目で120%を超える達成度であり、定性的な指標についても顕著な実績を上げている。
- さらに、新型コロナウイルス感染症対策として、特例承認の対応を含めて、迅速な審査に努め、新型コロナウイルスワクチンを開発する大学等に対して、早期に臨床試験に移行するために必要な開発戦略に関する助言を実施し、医薬品等をいち早く医療現場に提供することに大きく貢献している。

安全対策業務：A評定（第4期実績）

＜主務大臣による評価＞

- 定量的指標について全ての項目で目標を達成しており、定性的な指標についても多くの実績を上げている。
- さらに、令和2年度～令和5年度には、新型コロナワクチンに係る3万件以上の副反応疑い報告の受付・整理等を行うなど、所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。

ガバナンス関係：B評価（第4期実績）

＜主務大臣による評価＞

- 理事長自ら職員一人ひとりと個人面談（令和元年度～5年度まで、総計1,703人）を実施するとともに、職員に向けた理事長からのメッセージを配信している。
- 各業務に執行役員体制を導入し、幹部職員の職務とその責任を明確化している。
- 組織のガバナンス体制を確立するため、最高意思決定機関である理事会について、機構の運営に係る重要事項を一元的に審議する会議体に改組している。
- 将来発生しうるリスク事案にも対応できるよう、リスク管理委員会の在り方の見直しを実施している。

経費削減、予算、資金計画等：B評価（第4期実績）

＜主務大臣による評価＞

- 財務ガバナンスの強化について、予算編成においてシーリングを設定するとともに、費用を当該年度の収益で賄う内容としており、予算執行についても厳格な執行管理を行い、収入の範囲内で実施している。
- また、拋出金の安定的な徴収について、副作用拋出金、感染拋出金及び安全対策等拋出金の収納率を99%以上とする、中期計画における目標を達成している。